

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 7 月 28 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103650		
法人名	社会福祉法人 広島常光福祉会		
事業所名	グループホームげんき馬木		
所在地	〒732-0031 広島県広島市東区馬木4丁目2122-1 (電話) (082) 883-0238		
自己評価作成日	平成27年7月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103650-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年7月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

げんき馬木は、同敷地内に地域密着型サービスの3事業所（グループホーム、デイサービス、小規模多機能事業所）が隣接している。その事で日常生活や行事は利用者間はもちろん、職員間においても幅広く交流を展開することが出来ている。また、敷地が広いので、散歩や野菜の収穫など、外で実施できる活動も充実している。食事やおやつは全て手作りである。畑で採れた野菜も献立に取り入れている。毎月第3金曜日13時半より『寺子屋げんき』と称して、運営推進会議（奇数月）・介護者教室（偶数月）を開催しており、利用者、家族、地域住民、地域包括支援センター職員、民生委員等を招いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

・当該事業所は、広島市東区北部の広島高速1号線馬木IC出入口近くで、県道70号線とに挟まれた極めて交通便に恵まれ、面会や買い物外出等に適した閑静な住宅地域にある。
・施設は鉄筋2階建ての近代的建物で敷地内に同一法人経営の小規模多機能型居宅介護・デイサービス事業所の2事業所が併設されており、3事業所が相互に運営並びに行事等を連携しあって町内会などに積極的に参加するほか、「寺子屋げんき」と称する交流の場を巧みに開設するなど地域の中に日常的に溶け込んだ一体的な地域事業所として円滑な運営に努力している。
・職員は経験豊富な中堅職員で構成され男女ほぼ同一人数であるが、管理者を中心に明るく快活に利用者・家族等に接しており、「いつ来ても、挨拶・対応が明朗・適切で信頼感がある」と訪問者や家族等からの評価を得ている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> 法人や事業所の理念を玄関へ掲示し、毎日の朝礼で理念の復唱をしている。また1日ごとに目標を変え復唱し、それを実践につなげている。 個人の一日の目標を発表し、実践に繋げている。 	毎朝の朝礼時に事業所理念「心も身体もげんきで明るい毎日」及び職員で毎年見直し作成する「ケア目標」（準事業所理念）5項目を唱和し確認するほか、その日の職員個人個人の自己の職務上の目標を発表させ、宣誓と同様の効果を期待し、理念・目標を実践へ繋げる工夫をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の町内会へ所属し、役員を務めたり、会合の会場として事業所のスペースを提供している。また、公民館行事等にも参加をしている。 町内清掃などの行事にも利用者と共に参加している。また事業所の行事案内も行い（回覧版、掲示版の活用）、参加を促している。 日々の散歩でも、近所の方との交流の機会あり。 	開設当初から町内会に入会し、各種町内行事や作業に積極的にかかわりながら、事業所としても種々の行事や運営に町民の参加を勧誘したり、協力を得て地域との交流を深めている。特に、施設を地域のために活かした認知症啓蒙の講習や「寺子屋げんき」と称する定期的な交流の場を設定し、地域の一員として根付いた活動をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> 『寺子屋げんき』と称して、地域の方に運営推進会議や介護者教室に参加してもらい、認知症についての勉強会や意見交換を行うと共に、利用者との関わる時間を設けている。 認知症サポーター養成講座へも、講師として積極的に参加している。 		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> 利用状況、行事内容の報告を行い、意見交換しサービスの改善へ活用している。口頭の報告だけでなく、写真やげんきだよりも用いて、行事の様子が確認できるようにになっている。 町内会と防災協定を結び、事業所を地域の避難場所として提供している。 	敷地内・同一法人の3事業所合同で、毎回多数の家族・利用者・町内会員・職員及び地域包括センター職員等の参加を得て、活発な意見の交換によりサービスの向上に取り組んでいる。「寺子屋げんき」の延長的な色彩もあるが、土砂災害ハザードマップの見直しなど、地域と一体となった課題の改善などに取り組んでいる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議の開催ごとに案内を送付し、参加を呼びかけている。市の出前講座を活用している。 運営上で不明なこと等、質問等あれば市へ連絡を行って、解決できるよう対応している。 	市町担当者とは、介護関係法令や制度の改変時に質問事項等の問合せなどでよく訪問したり、「寺子屋げんき」で実施する介護教室の講師を依頼している。その他しばしば協力をお願いするなど、極力日常的な連携を保つよう配慮しており、相互に協力関係を築くよう意識的に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の意思を尊重して対応している。 ・玄関は空気の入替えを含め開放している場合が多い。閉まっている際にもボタンで開閉可能にしている。 ・勉強会、外部研修を通じて正しい情報を取り入れ、職員の意識の統一を図っている。 	<p>職員は身体拘束に関する知識として事業所内の勉強会を1回/年、部外研修を年間1～2回受講しており、日常的にも玄関の施錠を行わない運営の実践や、利用者の意思を尊重した利用者本位の対応などで、具体的に拘束をしないケアについて正しく理解し実践されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のケア、利用者・職員のメンタルへ気を配り、助言・指導を行っている。また、外部研修に参加し、自身の知識技術の研鑽に努めている。 		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会や権利擁護等の書類を確認しながら知識を取り入れ、全職員で理解が深まるよう努めている。 ・成年後見制度を活用されている利用者もいる。 		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・契約書、重要事項説明書をもとに丁寧に説明を行い、項目ごとに質問や疑問点は無いかながら、理解いただいているか確認をしている。 		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の面会時には、本人の状況を報告し、意見の聞き取りを行っている。また意見をいただいた際には、会議で話し合いの場を設け、運営へ反映させている。 ・年1回の家族会総会においても、運営に関する意見等を確認している。事前に家族へ意見要望についてのアンケートを行い、総会において回答している。 	<p>利用者・家族の意見、苦情・要望などは、訪問・面会時や運営推進会議あるいは年1回の家族総会前に、運営等に関するアンケートを聴取して、総会時に回答・意見交換を行うなど、事業所と家族・利用者間の積極的な意見交換・反映に努力している。2階に非常階段が無い不安、意見に対しても、建物の耐火性及び完全な防火設備による余裕ある避難時間の確保が可能との消防署の適切な助言を伝達して、納得されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の職員会議で課題を出して話し合い、運営や業務に反映させている。 ・管理者は、事業所としての意見や提案等を、月1回の法人管理者会議において報告している。 	職員は、日常的なミーティングや申し継ぎ・行事等の中で、相互に意思の疎通は図られているが、月に一度の全職員による職員会議で、運営や業務上の課題・提案等意見交換を行い、業務運営に反映させている。1・2階の利用者の交流が少ないとの改善策として、日曜日の午後1階リビングに集合して交流会を催す提案を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、管理者や現場リーダーとの面接によって、職員から意見の聞き取りを行い、職場環境・条件の整備に努めている。 		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の勉強会や外部の研修への参加、資格取得に向けての情報提供や支援を、計画的かつ積極的に行っている。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の研修や勉強会に参加することで、情報交換を行うようにしている。 		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心感を確保するための関係づくりに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の施設見学・面接で、家族や本人から話を聞き、丁寧に説明している。又、それを職員に周知し、本人の安心感の確保、信頼関係作りに努めている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の施設見学・面接で、家族や本人に困っていることや不安なこと、要望をしっかりと聞き取っている。 ・生活する上で重要な説明も理解しやすいよう、丁寧に行うようにしている。 		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅や他施設、病院等と連携し、情報交換等を行なう中で、家族や本人の希望を踏まえ、サービスの検討を行っている。 		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や家事の中で、昔ながらの工夫などを利用者に教えてもらいながら、食事作りや家事を行っている。 ・利用者と一緒に外出したり、活動を行うなど、コミュニケーションを多く図る機会を設けることで、信頼関係を築いている。 		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事などへ家族の参加の協力を得ている。 ・面会時や広報（げんきだより）で本人の状況を報告し、本人の様子を知ってもらっている。 ・ホームで出来る事、家族で出来る事をカンファレンスで話し合い、共に本人を支えていく関係を築いている。 		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居室の家具は、以前から使用していた馴染みのある物を持って来て使用してもらっている。 ・地域の顔なじみの方や古い友人など、入居前に関わりのあった方の面会を積極的に受け入れるように努めている。 	<p>利用者の馴染みの人や場所の把握は、日常的な会話や支援の都度また、知人等の訪問・電話などで確認している。特に面会などは快く対応・接遇し、事業所の日課を説明したり、一緒に食事を勧めたりして、極力長時間滞在していただくよう配慮し、帰りの時は再度の訪問をお願いするなど、本人との関係が継続するよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングの座席やソファの配置の工夫を行っている。 ・レクや工作などは、なるべく利用者同士の交流が図れるように、職員も間に入って関わりが持てるよう努めている。 ・合同行事以外にも、週に1度は全利用者が一緒に過ごせる機会を作っている。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・退所後も自由に来園して頂けるよう声掛けを行っている。また、退居後の相談も受け付けている。 ・入院による退所をした場合には、家族、病院と連携を図り、退院後の生活先と一緒に検討している。 		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合わせたケアを実施し、利用者が何を思っているのかを、表情や仕草から読み取れるよう、職員間で情報共有を行い、本人の思いや意向の把握に努めている。 	利用者ひとり一人の思いや意向の把握は、本人の生活歴・アセスメントや家族・本人との日常会話等から把握し、職員間で情報を共有している。特に身体能力・得手不得手・趣味・好き嫌い・習慣等、慎重に個別把握に努め、以後も日常的にモニタリングを継続して、情報の確度を高めるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活歴・アセスメントシート・嗜好チェック・サマリー等で情報をしっかり把握している。 ・本人や家族からも聞き取りを行い、本人の暮らしの把握に努めている。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のバイタル測定から健康状態を把握している。 ・日々の様子を申し送り、ケース記録、伝達ノートなどを利用し、利用者の現状把握に努めている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4か月に1度、介護計画の定期見直しを行っている。また、状態が変化すれば随時、見直しを行っている。 ・年に1回以上は全体見直しを行っている。また、職員間の情報や本人、家族の意向を取り入れ、それらが実現できるように、介護計画を作成している。 	<p>利用者本人の思いや意向を反映し、よりよく暮らすための課題とケアの在り方を、ケア担当職員が聴き取り調査して、基本案を作成し、家族・介護計画担当者等関係者と話し合い、4か月ごとに介護計画を見直し作成している。以後継続的なモニタリングと、関係者の意見の共有・修正により、現状に即した介護計画を作成・支援している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、ケアプランの実施状況をケースに記録し、評価に活用し、介護計画の見直しに活かしている。 		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同敷地内の事業所を自由に行き来し利用者同士の交流を図ったり、家族からの外出希望があれば、必要に応じて車椅子の貸し出しもしている。 		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会への入会や、地域ボランティアの受け入れを行っている。 ・近所のスーパー、薬局、飲食店、公共機関等を有効的に活用している。 ・公民館行事等も積極的に参加している。 		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に本人や家族よりかかりつけ医の希望を聞いている。 ・週1回、かかりつけ医の往診あり。状態に合わせてかかりつけ医から専門の病院に紹介してもらったりと、信頼関係を築いている。 ・異変や不調があれば適時連絡し、対応している。 	<p>入居時にかかりつけ医の状況を把握し、本人・家族の希望を尊重して、事業所の協力医と従来のかかりつけ医を選択決定している。精神科・皮膚科・眼科など専門医を除き利用者の大半は協力医を選択し、事業所とかかりつけ医・協力医との適切な関係を築きながら、安心した医療支援を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護時に、状況の報告や採血、またかかりつけ医の往診時には、バイタル表を提出して適宜報告している。 ・日々の情報交換を行い、助言、指示を受けながら対応している。 		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入院先の担当者（主治医、看護師）や地域連携室の相談員と、利用者に関する情報交換を行い、退院する際に本人に適した対応を行うようにしている。 		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者に重度化した際の対応について、事前に家族と話し合いを行っている。また、実際に重度化した場合は、家族、かかりつけ医へ現状に合った対応は何かを話し合うようにしている。 	<p>重度化や終末期における事前の対応についての本人・家族との方針の共有は、重要事項説明書においての文書による説明と、口頭で補足説明を行っている。事業所では医療処置ができないため、重度化した場合は、その都度、家族・かかりつけ医と話し合い、現状に合った対応が何ができるか、家族の意向は何かなどを話し合っており、極力要望に応じるよう支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会及び外部研修へ参加し、そのノウハウ等を共有している。 ・緊急時対応のマニュアルを作成し設置している。日々の入居者の変化に気付けるよう、細目な様子観察や、申し送りを行い、急変や事故を防ぐようにしている。 		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、近所の方を交えて避難訓練を定期的実施している。また、緊急連絡網を作成し、協力体制を作っている。 ・近隣町内会と防災協定を結んでいる。 	<p>管理者が町内会の隣保班長を務めている関係もあり、年2回、消防署の協力を得て行う避難訓練には、地域住民・近所の方の協力を得て、実効ある体制が取られている。敷地内の同一法人施設との連携・協力や、職員・家族間の緊急連絡網も整備され、また近隣2町内との防災協定も締結されており、防災体制はほぼ十分に整備されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・その人に合った声掛けや対応を常に心がけている。定期的にプライバシー保護の勉強会を実施している。外部研修にも参加し、プライバシー保護のための知識を得る機会を設けている。 	<p>日頃からさりげないケアを心掛け、利用者本人が自己決定しやすい声掛けや、本人が得意なこと、できる自信があることを行ってもらうなど、極力誇りを傷つけない、心地よい日常支援に努めている。認知症と思われるのが嫌な方や、失禁を恥じる方なども、さり気なくフォローして本人が誇りを保持できる支援をしている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意思を尊重したサービスを提供している。また、本人の意向や希望を取り入れケアプランの作成を行っている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生活習慣に合わせて対応している。また、本人の好きな事や得意な事を活かし、役割を持った生活をして頂いている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・その人の好きな服や身だしなみができるよう支援している。また、整容や入浴等で清潔を保持している。 		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の好き嫌いを聞き、対応している。また、アレルギー等の情報も全職員で情報共有している。 ・食事の準備や後片付けを一緒に行っている。 ・季節やイベントに合わせた献立の提供をしている。 ・畑で収穫した野菜も使っている。 	<p>利用者は食材の準備や、食後の食器洗い・テーブル拭きなど、自然に楽しそうに行っている。食事は毎食職員の手で調理され、一汁三菜・味付けも普通に美味しく、楽しめる料理が提供されている。利用者個々の好みを把握し、代替食材に変更することも可能である。また、季節や行事に応じたメニューなどにも配慮されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・その人の状態に合わせた食事形態や量を考慮した上で提供している。また、水分については、水分摂取量チェック表を用い、しっかり摂っているか確認を行いながら対応している。 ・栄養状態が悪い時はかかりつけ医の指示のもと、エンシュアや本人の好みのもの等で補給している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後に口腔ケアを実施している。その人に応じて、声掛けや一部介助を行っている。また、必要に応じて訪問歯科診療を利用し、口腔内の清潔を保持している。 ・年1回『寺子屋げんき』の中で、歯科衛生士より口腔ケアの必要性について学んでいる。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・その人の体調や状態に応じて対応している。排泄表を作成し、排泄状況を確認している。 ・外出時や夜間帯等に、トイレの間隔が開かないように、声掛けや誘導を行っている。 	利用者の入所時に、ある一定期間排便の、頻度・時間帯・顕著な特徴など細部を観察・把握して、「排泄状況確認調査表」を作成し、個別の対応ができるよう支援している。特に、利用者個々の夜間の頻度・特徴に留意し、トイレでの排泄ができるよう、声掛け・誘導し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・水分摂取量や食事等で、しっかり予防出来るよう取り組んでいる。また、食べ物以外でも、体操や身体を動かす支援を行い、体調管理をしている。 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・その人に合わせたペースや方法で、入浴して頂いている。また、その人の状態に応じて、安心して気持ち良く入れるよう声掛けや介助を行っている。 ・異性介助にも配慮し支援している。 	入浴は、利用者個々の希望に沿った支援をしている。入浴回数は平均3～4回/週で、利用時間は利用者の好みに合わせ、入浴時間の長短や湯温高低の好み、使用洗剤の選択など好みに応じた支援をしている。入浴は基本的には一人ずつ、異性介助やプライバシーにも配慮し、楽しみながらゆっくりとくつろげる支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空調や照明の調整を行っている。 ・必要に応じて食後の臥床や、日中にしっかり体を動かして活動し、夜間は気持ちよく休めるよう支援している。 		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・処方箋を把握し、一人ひとりの薬の仕分けを分かり易いよう行っている。 ・服薬時の確認や、必要に応じて介助を行い、確実に内服できるようにしている。 ・1週間に1回、薬剤師から服薬の管理指導を受けている。 		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体操、ゲーム等のレク活動、外出等を毎月計画、実施しており、楽しみや気分転換になるようにしている。また、食事の準備やの後片付け等の役割を提供している。 		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日には、園庭での外気浴や散歩などを行っている。また、ドライブや外出、日帰り旅行なども家族と一緒にしている。 	<p>特に本人の希望や申し出に応じた外出支援という形ではないが、天気が良い日は、ほぼ毎日午前中に散歩程度の外出支援を行っている。ドライブや買い物目的の外出は、グループごとに分かれて随時支援しているが、年間に1回事業所として日帰りの旅行を計画し、家族と協力して実施し、楽しんでもらうよう支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する人には自己所持して頂き、買い物に行ったり、電話を掛けたりと、自分でお金を使用する機会を設けている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>・本人の希望に応じて電話（公衆電話、携帯電話）を掛けたり、手紙を出せるよう支援している。その為に必要な連絡や調整、準備などを、必要に応じて行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>・導線上の障害物や歩行しにくいものは除去し、その人の状態に合わせて、手すりや移動しやすいスペースの確保を行っている。</p> <p>また、玄関やリビング等の共用部に季節の飾りや作品、写真等を展示し、心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>敷地が広いと、隣接する民家とも離れており、閑静な住宅街として落ち着きある環境に恵まれている。共用空間は清掃が行き届き、室内に季節の飾りや利用者の写真等が展示してあるが、幼稚すぎたり派手すぎることなく、比較的落ち着いた家庭のリビングの雰囲気があり、自分なりの心地よいゆったりと過ごせる空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>・共用部分には、食卓テーブルの席以外にも、少人数で過ごせるスペースの確保や、ゆったりと座れるソファなどを配置している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>・自宅から使い慣れた家具や家族の写真等を持ち込んでもらい、部屋のレイアウト等も、本人や家族が自由に行える。</p> <p>・転倒防止等の事故防止の為、安心して過ごせるような環境作りを行っている。</p>	<p>個室は、備品としてベッド・エアコン・カーテンのみで、寝具類はレンタルとなっており、それ以外はすべて筆筒・鏡台・椅子・テレビ・電気器具など自由に持ち込みができる。入所時に、事業所としては極力新品ではなく使い慣れた馴染みのある物の持ち込みを勧め、また極力、利用者本人の希望を取り入れ、居心地の良い部屋づくりができるよう支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>・本人で出来る事はしてもらい、難しい所は職員と一緒にしている。</p> <p>・リビングに手摺や空間を広く取り、移動しやすくしている。また、トイレや風呂場、居室等が分かり易いよう、大きな目印を付け、テーブルの席にもシール等で名前を付ける等の工夫を行っている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームげんき馬木

作成日 平成27年8月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	家族より戸外に出かけていない印象があるとの意見がある。(2家庭より)	室外の行事や活動の充実を図る。	園庭を使った行事や、町内会行事への参加、日常生活の中で外出支援を計画し、実施する。	1年
			日常生活の外出の様子をこまめに家族に伝える。	毎月各家庭に発送している一筆箋に日常的に戸外に出かけた出来事を記入する。	1年
				カンファレンスや面会の際に、戸外に外出した出来事などを家族に報告する。	1年
2	18	家族より本人の生き生きとした表情や姿がほとんど見られないとの意見がある。(1家庭より)	レクリエーションの充実を図る。	午後に2名体制で集団や個別にレクリエーションを行う。先ず職員から明るい言動で進行する。	1年
3	30	家族より健康面、医療面、安全面に心配が少しあるとの意見がある。(1家庭より)	怪我や病気に対して細やかな連絡を行う。	怪我や病気等の診断があった場合や症状が変わった時、受診の都度に家族へ症状や今後の方針などを説明する。	1年
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。